

商工会青年部
行政懇談会
特集号

いしづえ
礎

発行責任者 佐藤 栄一
発行 三春町商工会青年部
総務委員会
委員長 村上 瑞夫
発行日 平成3年3月1日

開催報告

総務委員長 村上 瑞夫

平成三年一月十一日(金)に町政懇談会を開催致しました。当日は、町より田中(企画調整)、宗像・原・吉田(三人は都市整備)以上四氏のご出席を得、我が青年部からも多数の参加者があり、終始和やかな内に、有意義な時間を過ごすことができました。

懇談会の内容は本文に譲ることにして、当日、出席できなかった方のために、懇談会開催の経過や当夜の雰囲気などをお知らせします。



この事業は平成元年度事業として計画されたものです。当初は、「町づくり勉強会」として、各支部での意見交換をもとに、町政に対する要望・疑問点を提出していただきました。これを整理して基礎資料とし、勉強会開催に持ち込む手筈でした。しかし、おもに総務委員長の怠慢により各支部より提出された資料は、倉庫の隅に文字どおり、お蔵入りとなる危機をとうり次年度繰越になりました。

これが、さらに次年度繰越にならなかったのは、「これをやらない内は、総務委員長をやめさせない」という青年部長の脅迫と、「補助事業をやらなかつた場合には、その理由をつけて補助金を返還することになるが、当然その理由は、総務委員長に書いてもらうことになる。」と言う、事務局の苦情に屈したからであります。

町側の窓口は、原商工観光係長にお願ひし、特に「若手優先」の人選依頼をした結果、先に紹介したメンバーになりました。当日町側出席者の紹介があつたときは、原係長への依頼に、何か誤解があつたのではないかと一瞬心配になりましたが、さすが「若手優先」の

条件を勝手にクリアして出席された方々だけに、当方の心配をよそに、若々しい議論が展開され、我々もしばしば圧倒されながらの懇談となりました。

特に、お互いのコミュニケーション不足のために、しばしば行政に對して否定的になり勝ちな我々の思考経路を、補正するのには、大いに効果が上がったと思われまふ。何より行政側も我々も、共に町をよくして行くために活動しているという共通の基盤を、確認できたことは大きな成果であつたと思ひます。

一方、街並整備、道路整備の問題などでは青年部も含めた町民の「それを構成するのは我々個々の生活である。」とするミクロ的な視点と、行政側のマクロ的な視点との対立は、依然そのまま存在するわけで、保有する関連情報量の不均衡を考え合わせたとき、タイムリーな情報の開示を含め、行政側の歩み寄りがあれば、両者の間の関係もよい方向に向かうと思われました。

さらに、計画が決定になつてから実行に移されるまでの経過時間の長さなど、私達の生活感覚とは、かけはなれたところもあります。

以上が、懇談会の雰囲気と概略であります。この事業が平成元年度からの事業で、二年度終了間際に、開催に漕ぎ着けることができたのは、先にも触れた通りです。

今回の行政懇談会開催にあたり、快く出席して頂いた町の四氏と、テーマ設定の打ち合わせや、当日の役割分担など協力いただいた総務委員会の皆様、そして怠惰な総務委員長を叱咤激励して下さいました、佐藤青年部長、事務局佐久間氏に感謝する次第です。

『懇談会内容』

最初に、行政当局に於いて現在進行中の事業計画、内容等についての説明を頂いた。その概略は次の様なものであつた。

田中企画調整課長補佐

◎現在の三春町を取り巻く上位計画として、国の四全総による阿武隈高原開発構想、県の長期総合基本計画並びに郡山地域テクノポリス構想があり、現在進行中の国の巨大事業として三春ダム・磐越自動車道の建設がある。

◎『すみよい町』というものの基本である「働く所」「住む所」「憩う所」の三条件を備えた町にするための地域計画として、「三春の里」構想がある。

即ち、大平工業団地の七倍の広さを持つ田村西部工業団地の造成。白山荘と運動公園の一体化を含めたハイウェイ・オアシス計画。大池ニュータウン構想。第三センター

による農園付き住宅構想も含んだ桜の山・ダム記念公園構想。そして大町拠点整備・下水整備といった市街地整備が、その地域計画である。



宗像都市係長

◎市街地整備計画に於いては、県事業として大町四ツ角から南町までが既にスタートしている。平成三年には大幅なる進展があろう。計画は平成七年度完成だが一年程度は遅れるかもしれない。

◎現在、北町と新町の道路を十二メートルにする調査に入っている。又、市街地整備と合わせて、拠点整備や公民館のリフレッシュ計画とのドッキングや紫雲寺山散

策路の整備も考えている。下水道の整備に関しては、平成三年度から説明等で動き始めることとなっている。

◎何故道路を上げるのか(正確には歩道をといて事)であるが、購買人口を増やしてくれ、それも商店街に近い所に、という商業者の要望もあり、町としては駅南部・新町東部と宅地造成を実施し、平成三年は南西部更には北東部の計画もある訳だが、これらが完成した時に、今以上に商店街区に入ってくる気安さ、安全性を商店街に持たせるためには、歩道つきの二車線道路は、最低限必要である、との判断から街路事業の実施という事になった訳である。この街路事業実施に際しては、別な経済的波及効果も期待できる。



吉田都市整備課主任

◎裏道整備を含めた街並整備促進事業の調査を昨年より実施。建物周囲を美しく、住みやすくするための景観条例を制定するとともに、町づくり協定というものを皆なで話し合っ決めて行く考えである。その前段として景観ウォッチングを創設し、既に実施している。

原商工観光係長

◎中心商店街活性化に重点を置いた積極的な勉強により、確固たる自分達の商店街像を頭に描いて、町と話し合って行くことを青年部には期待している。

◎今春の三春まつりとして、お城山のイルミネーションによるライトアップ計画があるので、これへの参加を青年部事業計画に入れて欲しい。

以上が行政当局の説明の概略であるが、この説明に基づいてのQ & Aの主なもの、次の様なものであった。

Q 市街地整備計画の策定はいつ頃行われたのか。

A 市街地整備計画は昭和四十二年頃に来出来ていた。実際にこれが動きだしたのは昭和五十七・八年頃から五年間位検討し、それ

がまとまったのは昭和六十三年頃である。

Q 住民が直接関与する様な計画は、もっと早目に公開する必要があろうか。

A 本計画に関しては十年位議論したが、なんら具体的な進展がなかったのが実情であり、今回はそれを思いきって掲示した訳である。

Q 市街地整備は、商店側から見ると商店街整備にはかならず、その点を考えれば全商店が同レベルで事業内容を知っていなければならぬと思うのだが、地権者には説明して借地、借家の人には、同一時点で説明しないのはどうか。

A 調査段階では地権者のみに説明し、実施段階に入った時点で説明することになっている。

Q ダム建設に伴い、町水道の水質はどう変わって来るのか。

A 現在、町ではダムの水質がどの様なものになるか、というデータは持っていない。ダム事務所では持っているのかも知れないが、この様な状況なので、平成三年度より水質調査に入る予定になっている。しかし、水質を保全する根本は下水道の整備と考え、これの調査も平成三年度より着手することになっている。

部員と同一世代の町の職員の方々と懇談したのは、今回が初の事であったが、白熱した議論が飛び交う場面もあり、大変有意義なものであった。唯、若輩ではあるが我々青年部も、住み良い町を創るために、種々の事業を実施している(つもり)割りには、事業計画実施に際し視点が若手商工業者に向いていないな、と感じた。より以上の勉強の必要性を強く感じた懇談会でもあった。

編集後記

